

【奈良文化幼稚園】H28年度 学校評価 自己評価書 I 教育活動に関するもの

教育目標	1. 健康で 元気に 満ちた 子どもに育てる。 2. 感受性や 創造性の 豊かな 子どもに育てる。 3. ひとり立ちができ 誰とでも仲良く遊べる 子どもに育てる。
------	---

項目ごとの評価 (中・小項目とも) 4段階評価 A: 極めて達成度が高い B: 概ね達成できている C: 課題を残している D: 課題が多く速やかな改善が必要

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善	
I 教育活動に関するもの	(1) 教育目標・ 教育計画・ 教育課程	①教育目標の設定	園の教育理念や教育方針を理解し共有できたか。	本園の目指す、わんぱくの森を軸とした「遊び中心の教育」の実現に全教職員で取り組んだ。	A	A 園庭研修会に積極的に参加するなど、園の方針に従って教職員一人ひとりが理解を深めた。	それぞれが学び取った内容について積極的に意見交換をすることで教育内容の向上につなげたい。	
		②教育計画の作成	園の方針を教育計画や保育に活かし、体力づくりと遊びの環境の充実に重点をおけたのか。	工事の進捗状況に応じてその時々園児が「夢中になって遊び込める」環境を作り出せるよう工夫した。	A		外部講師を招いてわんぱくの森を利用した体力作りの実践例を学び取った。また「足指測定」を取り入れて園児の体力の向上を確認した。	わんぱくの森の進化に対応して子どもの動きや季節に合わせた遊びの研究を深める必要がある。
		③教育要領に基づいた教育課程の編成	発達特性を踏まえ、園生活全体を通して具体的なねらいと内容を組織できたか。	発達段階に応じて学年毎の具体的な重点目標を設けた。	B		目標について学年で共通理解を図り、概ね達成できた。	実行にあたってやや計画不足に感じた点を再検討して達成度を高めたい。
		④教育活動の評価	園の目指す幼児の姿を具体的に共有し、園長を中心に教職員で協力して、その実現に向けて教育活動を行ったか。	一人ひとりの園児が主体的に活動し、精一杯の力を出し切れる保育内容を教職員で検討した。	A		日々の園生活で子どもの実態把握に努め、学年会議や職員会議で目指すものを共有し、それに合わせた保育内容に取り組むことができた。	他学年の状況にも目を配り、在園期間全体を見通した教育活動に高めていきたい。
		①基本的な生活指導	正しい生活習慣の大切さを知らせ、自然と身につくようにする。家庭と連絡を密にしながら、取り組むことができたか。	個々のペースを見守りながら、団体行動の大切さや望ましい生活習慣の指導に努めた。	A	A 個人差を理解して援助の方法を考え、実施することができた。また学期末懇談以外にも毎月のお帳面などを通じて一人一人の様子を丁寧に家庭に伝えた。	一人ひとりの家庭環境の違いや個性を理解しながら必要な習慣を身につけさせるよう指導する。またその情報を随時家庭と共有するよう心掛ける。	
		②環境を通して行う活動の充実	見通しを持って計画的な環境の構成や活動の展開に応じて環境の再構成ができたか。	わんぱくの森の整備計画を踏まえ、日々の観察から子どもの興味・関心を捉えて、意欲が育つ環境を工夫しようとした。	A		教師が試行錯誤を重ねながら子どもの実態と新しい環境に応じた遊び方を実施できた。	園児の様子からのフィードバックを教職員で共有しながら工夫を重ねたい。

(2) 指導の状況	③個や発達段階に応じた指導	一人ひとりの実態や内面を理解する指導法の工夫ができたか。	個々の発達の特性を把握し、重点ポイントを考えて指導することができた。	A	一人一人の背景を把握した上で、こうなってほしいという願いを持って指導の仕方を工夫することができた。	気になる子どもへの関わりは積極的にできたが、特に目立った問題がない子どもがなおざりにならないよう全体に目を配りたい。	
	④遊びを通しての総合的な指導	幼児が主体的に活動したり、充実感を味わったりできるような指導を行うことができたか。	子どもが自ら試したり、考えたり、気付いたりできる遊び環境を整備した。	B	子ども達からやってみたいと思える保育計画を工夫できたが、思うように進まないケースで最終的に教師が引っ張っていく部分があった。	一人ひとりの子どもの興味、関心に心を寄せ、時には待つことも含めて、自分達で選んでやってみる満足感、達成感をもっと味わわせたい。	
	⑤体力作りを目指す取り組み	子どもを夢中にさせる運動遊びを展開する。	「わんぱくの森」計画において体力作りのための運動遊びを重要目的と位置付けて環境づくりを行った。	A	行事によっては、実施に当たって充分子ども達に浸透させられず、成功を焦る気持ちから教師主体で進めてしまう部分があった。	子ども主体で子どもの発達状況に添った行事、ということを出発点に、改めて教職員で話し合っていきたい。	
	⑥地域での教育活動の充実	地域に出かけ、地域を知り、地域の中で活動し、感じる機会を大切にできたか。	時計屋見学、お店屋見学など園を出て地域と交流する保育活動を実施した。	B	A	整備途中であるが、既に子ども達が外遊びを非常に楽しみにし、時間の許す限り夢中で遊べる環境になっている。	計画の進捗に伴い、変わりゆく環境に対応して様々な遊びを展開できるように、教員が研究していく必要がある。
	⑦夢中になって遊び込み、意欲の育つ遊びの充実	質の高い遊び環境を設定し、自由に選択する機会を充実できたか。	子ども自身が目標を持つことができ、考えながら遊ぶ環境作りに努めた。	A	社会見学としての学びは充分達成できたが、自分たちが地域コミュニティの一員であるという意識づけには至らなかった。	地域の人との繋がりや、地域の中で生活している自分たちという意識から、助け合い、思いやり、親切、に繋がって行く保育内容にしたい。	
	⑨絵本やおはなしに親しむ取り組み	絵本やおはなしを1日1回子ども達が楽しむ機会をつくれたか。	保育時間の中に絵本に親しむ時間を設け、より身近に感じられるように心がけた。	B	子どもたちが遊具や玩具を自ら選び、時には遊びを発明して、目的を達成したときの充実感を味わえるようサポートした。	第2期工事が完了し、子どもの遊びも更に多様化しているので、日々観察し、遊びの意欲を育てる共通認識を教職員で再確認したい。	
	⑩特別支援体制の充実	教職員間で支援が必要な子どもについての実態や課題について共通理解できる体制づくりができたか。	臨床心理士による行動観察を園内で実施し、その結果をもとに配慮を要する子どもについて共通理解を図った。	A	読み聞かせだけでなく、友達同士や、1人でも絵本を楽しむ習慣が身についたが、1日1回の数値目標の達成はクラスによってばらつきがあった。	よりよい絵本の選定、子ども達がより絵本に親しめる環境作りに努めたい。	

【奈良文化幼稚園】平成28年度 学校評価 自己評価書 II幼稚園経営に関するもの

項目ごとの評価（中・小項目とも）4段階評価 A：極めて達成度が高い B：概ね達成できている C：課題を残している D：課題が多く速やかな改善が必要

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善
II 学校経営に関するもの	(1) 組織運営	①組織の一員としての在り方	教職員全員でひとつのチームであることを意識している。	園運営や行事の目標に向けて全員で取り組むことができた。	B	それぞれ担当ごとに責任をもって役割を果たしているが、スムーズさを優先して経験の長い職員主体で動いてしまうことがあった。	各行事、取り組みに対して、担当者を中心に全教職員の共通理解を更に図り、一丸となって当たりたい。
		②幼稚園経営目標・方針	具体的な経営目標、実態、数値目標について、共通認識でき、募集活動を積極的に行う。	募集の係を限定せず、全教職員が体験入園、地域のイベントといった広報活動に参加して募集に携わった。	A	出願開始日に、予定していた定員数が埋まる好調な募集状況となった。	近隣の他園に負けない魅力ある幼稚園づくり、また、保護者が自信を持って知人に薦めてくれる幼稚園にするため、保育内容の充実を図る。
		③教職員の適正配置と職員の運営への協力意識	園長や主任に報告・連絡・相談を行い、議論の上決定したことには、協力し実行している。	必要に応じ、報告・連絡・相談して力を合わせることを全教職員が意識して業務に当たった。	A	一方通行の連絡ではなく会議体で意見を出し合って決定に至る運営を心掛けているので共通理解が図らやすかった。	直接会って伝えられなかった場合にも誤った理解を少なくするため、園全体で日々のコミュニケーションを更に心掛けて行きたい。
		④園務分掌等の連携	各委員会、係で必要に応じて協議、分担して、効率よく運営を進めた。	必要によって分担することで円滑な園務遂行を図ったが、分掌により、十分に機能していない係があった。	C	積極的に取り組めていない係があり、事前の準備が不足して効率よく計画的に実施できないケースがあった。	教職員全員が常に全体を見渡して、不足している部分、遅れている部分に目を配り、協力できる体制を整えて行きたい。
		⑤会議の運営と位置づけ	定期的に職員会議を行い、教職員相互の共通理解に基づく運営をしている。	必要に応じて全教職員が参加する職員会議を開いて共通理解を図った。	B	園の運営に対して全員が当事者意識を持つことができたが、一方で会議時間が長くなり、効率的と言えない場合もあった。	全員での会議を長引かせないように、各担当はあらかじめ原案を持って臨むなど、準備を入念にすることを意識したい。
		⑥職場の人間関係	教職員全員と親しくつき合い、偏った人間関係を作っていない。	普段からコミュニケーションを大切にし、親睦を深める場も定期的に設けて絆を深めた。	A	全員が気兼ねなく意見を言えることで、様々な立場の見方を知ることができ、業務の円滑遂行に役立った。	積極的な意見交換ができる風土を生かし、更なる園の充実化を図りたい。
		①園内研修	自園のテーマや重点項目等を決め、継続的な研究を行い、教育内容の質の向上や改善を図っている。	わんぱくの森の活用に向けて外部講師を定期的に招き、園内研修会を実施した。	A	外部講師によって新たな見方を示唆されるなど教職員の力量向上のための刺激なった。	継続的に教職員の研修を行い、教育の質の向上に努めたい。

(2) 研修	②園外の研修への参加	今日的課題に関する研修や研究に関心を寄せ、出来る限り積極的に学習の機会をもつ。	わんぱくの森計画を充実させるための園外研修に積極的に参加した。	A	A	他園の取り組みを知ることで、本園の恵まれた環境下で新しい保育を追求する積極性が教職員に生まれた。	今後本園で起こりうる課題に対しても積極的に研修を深めて行きたい。
	③研修成果の普及	個人の研修成果を保育や行事の中で生かし、園全体の教育力の向上を図る。	研修で学んだことを園で報告し、教育目標に沿った形で本園に取り入れることができるか全員で話し合った。	A		特に“わんぱくの森”について、他園での取り組みを学んだ教職員を中心に意見交流の場を持ち、考えを深める機会を持つことができた。	他園で感じた内容をただ報告書にまとめるだけではなく、形あるものにして園を引っ張っていく行動力を一人一人が持ちたい。
(3) 安全管理	①安全計画の立案	危機を想定し、子どもとともに訓練を実施する。	危機管理マニュアルに基づいて訓練を実施した。	A	A	本園の避難訓練を消防署に実地に点検して頂き、問題点を克服することができた。	子どもたちに意識させるため、今後も、定期的実施していく。
	②安全指導実施状況と改善策	教職員、園児を対象に、確認、指導上の上、改善に努めている。	火災・地震など様々な場面を想定した訓練を行うことができた。	A		様々な状況を想定した訓練を実施することで安全指導の改善を図ることができた。	災害だけでなく、不審者対策の訓練なども取り入れて行きたい。
	③危機管理マニュアル	学園としての危機管理計画に基づき、自園の防災計画を見直す。	危機管理マニュアル及び園の防災計画を見直し、特に教職員の役割分担を徹底して確認した。	A		書面上にとどまらず、実際の訓練で感じた小さな疑問や問題点を話し合い、共通理解の上で解決することができた。	安全計画書の作成に至っていなかったもので、作成したい。
	④関係諸機関との連携	警察・消防署・市役所等公的機関との連携を図る。	消防署や火災報知器業者と一緒に確認する、などの連携をとった。	B		消防の方から実際に指導を仰ぎ、安全対策や緊急時の対応を学ぶことができた。	定期的に取り入れることで、対応の仕方を確認しながら指導も受けることが出来るので、今後もそういう場を設けていく。
(4) 保健管理	③健康診断の立案と実施（関係機関との連携）	保健所・園医との連携を図る。	園医との綿密な連携の下、園児の健康状態について指導を受けた。	A	A	園医と密に連絡を取って相談することで、状況に即応した対応をとることが出来た。	今後も、子供たちが安全に健康に生活できるように、園医や保健所との連携を図っていく。
	②家庭との連携	流行病や予防策など保健だよりで伝える。	園からのお便りで、考える流行病の予防策や、日常の手洗いうがい消毒を実施していることを伝えた。	A		幼稚園での対策について、保護者が安心してくれることが伝えられた。	園で流行病の感染例がでたら情報を開示してほしい、という要望があり、どのように対応していくか検討する。
(5) 地域との連携	①地域との交流	「開かれた幼稚園」としての取り組みを計画、実践する。 家庭、地域との連携の機会を計画、実践する。	園庭開放や地域との交流（商店街での園外教育等）、また、葛城市や高田市のイベントへの参加を通じ、交流を深めた。	A	A	地域と関わる機会が増え、子どもたちは非常に楽しみにしていた。	行事は時期的に集中することが多く、スムーズな段取りができない場合があった。日程調整が行えるものは交渉してみたい。

	②PTAの活性化	本部役員、クラス役員、各クラブとの連携を強化する。	PTA 役員には大きな行事（運動会・バザー）で協力してもらい、PTA のクラブ活動も園の行事に組み入れて発表の場を提供するなど連携を強化した。	A	本部役員、クラス委員がお互い積極的に行動して教職員並みの協力をしてくれた。	園の行事を早めに周知するなど、連携を取りやすい環境を作っていく	
	③幼小連携	今日的課題に向き合い、就学に対する不安を解消する。	小学校の連絡会等に参加してその結果を持ち帰り、子供たちの就学に対する不安解消に努めた。	A	特別支援についてはより丁寧に情報共有することに努めた。	就学先は多数にわたるので時間が費やされるが、子供たちが安心して就学できるように、情報共有を行っていく。	
	④関係者評価の実施	保護者アンケートの結果を知らせる。	2 学期に保護者から園の保育内容に関するアンケートを実施し、結果報告を行った。	A	アンケート内容を文書で正確に保護者に報告することができた。	保護者会での説明など他の開示の方法や地域の人を含めた第3者評価の実施を今後検討していく。	
(6) 施設・設備	①施設、設備の管理	責任をもって、清掃・点検・後始末をする。	各学年で担当箇所を決めて清掃や点検を行っている。	A	A	各学年、きれいな環境を意識しながら責任をもって取り組むことができた。	子供たちの環境整備への高い意識を持ち続け、担当場所を毎日確認し、維持できるようにする。
	②遊具、用具の活用状況と全体管理	安全に活用できるように点検、整備をする。	遊具が増えた分、点検する箇所も増えたが、安全活用のため怠りなく点検し、速やかな修繕対応ができた。	B		教職員で遺漏なく点検しているが、整備については専門家ではなく、不十分な点があった。	教職員で修繕できる部分と専門業者に委ねる部分をはっきり区別する必要がある。
(7) 情報管理	①公文書の收受、保管	分類して、必要な時にすぐ出せる状況にする。	細かく分類して文書を保管し、必要な時にすぐ参照することができた。	A	B	ファイルを利用して細目ごとに区別して分類しており、見やすくしている。	PC に保管しておくなど、効率よい検索方法を模索していく。
	②公文書の作成	速やかな対処をする。	期日を厳守することはもちろんだが、極力速やかな文書作成に努めた。	A		行事録や会議録も後送りせずその都度まとめ、整理して保管することができた。	現在の状態が維持できるように心掛ける。
	③個人情報の管理、保護	個々の子どもの情報、保護者、家族の情報は口外していない。	個人情報の取扱には細心の注意をはらい、学園関係者以外に不要な情報が伝わることはないよう全教職員が努めた。	A		不特定多数が対象のホームページでの発信も含め、細心の注意をはらっていたので、特段の問題はなかった	現在の状態が維持できるように心掛ける。
	④情報の収集	園運営上必要となる情報を積極的に収集する。	常に最新の情報を発信できるように丁寧で閲覧しやすい HP 作りを心掛けたが、更新できてない箇所もあった。	C		HP の情報は常に更新しなければならないが、失念していたこともあり、古い情報があった。	HP は広報の情報源であるため、担当者だけに任せず、全員が確認していく。